

**平成28年度「地域で生きる」障害者問題市民講座
「相模原障害者市民殺傷事件を考える」**

～事件の深層と重い障害のある市民が地域で生きる事の意味を改めて問う～

**何がどう?で、何がそう?なのか
まあ(私なんぞには)解らんこと(だらけ)の中で
語ることの恐ろしさと悍ましさと
人が死ぬ(殺された)ということ
唯、生きる、ということ、と**

2017年3月11日(金)

李 国本 修慈

**まあ(私なんぞには)解らんこと(だらけ)の中で
事件の中身だとか詳細もそうだし、多くの方が指摘する安樂死だとか優生思想が云々等も私にはイマイチよくわからない。
と言うものの、そんなに多くのことを見聞した訳でなく…**

**語ることの恐ろしさと悍ましさと
なんとなく「施設と地域」のような議論に傾くのも悪くは無いと思うのですが)き過ぎのような…**

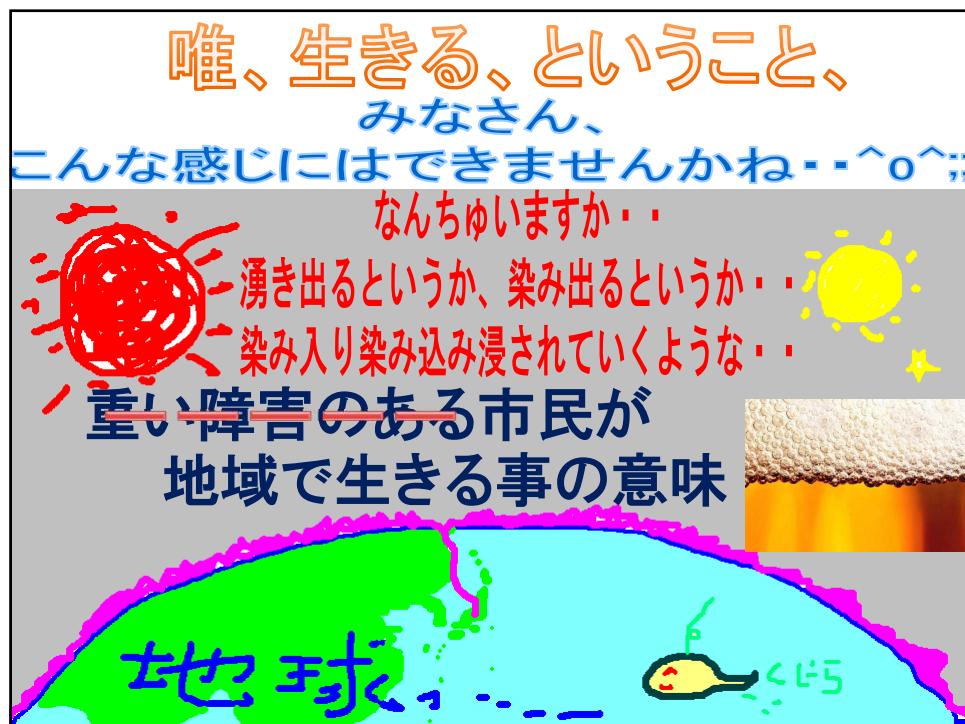
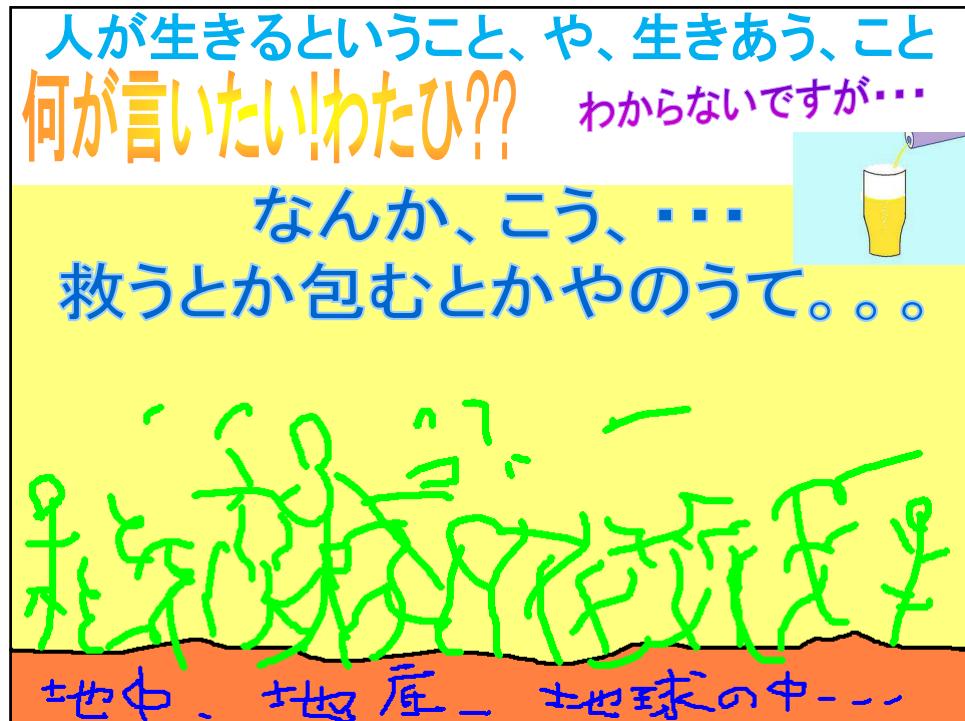
「施設がけしからん、と言うけれど…」等ともお聞きしたり…

**「けしからん」のは、…などとか、
それでも語られる、支援者等と(も)言われる輩たちの「最も」
らしい(あるいは、らしく、正義のような)言葉の数々…**

例えば、
『それなりに理由があるから入れている』
という親御さんの言葉の重みだとか
『施設を出て街で暮らせばいい』
なんてのは誰でも言える
その昔(阪神大震災の際)
清水明彦さん(今日もいらっしゃる^^;)が、言ったらしい言葉、とか
今、私もいろいろ思う

人が死ぬ(殺された)ということ
唯、生きる、ということ、と
はっきり言って、私には、よーわからん、し、
語れるものでもない中で…
—彼らに聞いてみた





ありがとうございました!



<http://www.kangaeyo-kai.net/>